



学園前の桜の並木は、青々と、緑の木陰を作っています。梅雨のこの時期、雨の日には子どもたちを雨から優しく守ります。梅雨の晴れ間に行われたオープンデイ。初めての高学年による学園祭も、盛況のうちに無事終了しました。また新たな出会いがありました。オープンデイの様子は次号でお伝えします。

学園メンターであるローター・シュタインマン氏来校 5月13日(月)～18日(土)

内部向け勉強会 5月14日(火)

「メディアについて」というテーマは、シュタインマン先生にとっても扱いが難しいものであり、『『どう対応するべきか』』という一つの答えは出ていない、「メディアは余りにも大きく、小さな個である私たちがどうすべきかを定めることは難しい」という言葉から、お話が始まりました。

「常にメディアを否定的にとらえて対抗しようとすることは間違いである。けれどメディアに振り回されないように、私たちは「強い人間になる」必要があり、そのために「自分の内側の人間を強める」＝「自分の自我の中に常にある」ことを目標とする。それはシュタイナー教育の目的そのものでもある。」というお話は、とても興味深く感じました。

昨今ではドイツのシュタイナー学校にもコンピュータールームがあり、「現代社会において学ぶ必要のある」分野と捉えられているそうです。日本の公立学校でも小学校からコンピューターを授業に導入している様ですし、親としては確かに、全く知識・経験のないまま社会に出すことは不安もある。高学年になれば各家庭の裁量ということになるとは思いますが、先生の仰るように「振り回されない」強さが（大人もそうですが）我が子の中で育っていく様子を、しかと見届け、見守りながらの、慎重な道になるだろうと、個人的には思っています。

先生の言葉の中で、「技術そのものに良い悪いは無い。大切なのはどう使うかです。」という一言には深く納得しました。そのためには、(先述の)内面の力、が関係してくる。これは、子供たちだけではなく大人も同じだと思います。また、メディアのテーマからは逸れますが、もうひとつ非常に心に残ったお話がありました。シュタインマン先生ご自身が父親として参加した保護者会にて、担任の先生が「今日は誰もが他人に対して判断を加えずに、心を開いて語り合しましょう。」と提案。その日の会はとても良い話し合いが出来たそうです。

人間はとかく善悪での判断や、好き嫌いからの裁断をしがちですが、大人が集まれば、それぞれが違う価値観や背景を持っているのは当然のこと。違いを感じるたびに反応したり、「それは違う」とぶつかっては、いつまでも調和は生まれません。違っているのは当たり前、それをお互いに尊重しようという約束をすることで、自分自身をオープンにして語り合う事が出来るし、自然と調和が生まれひとつになっていく。メディアについても、この話についても、単純に物事を裁断せずに対処する心の広さと強さを、親としては持たねばならない…そうしなくちゃ、せっかく素晴らしい教育を受けている我が子たちに申し訳ない、そんな風に感じたのでした。よい学びと気づきの機会を頂きました。ありがとうございました。

(7年生保護者 飯島純子)

公開講座「模擬授業～4年生の動物学」

5月18日(土)、シュタインマン先生の公開講座がありました。テーマは「4年生の動物学」で、シュタインマン先生が昔実際に経験した「死んだニシンを使った解剖学」エピソードから、死んだニシンでは、子どもに好奇心を持たせたり、湧かせたりできない。心がアクティブになることで、理解し、知識になる。その後、先日学園で行われた6年生の植物学のクラスから、「法則を自分で発見する」為には、先生があまりしゃべらず、子ども達に積極的に話させること。「次の日」というのがシュタイナー教育の原理で、刺激と反応の間に休むこと、一度そこから離れるとアイデアが湧くのだ、と話して下さいました。

講座の後半は、12年生の人間学に話が広がりました。サルは赤ちゃんの頃の方が人間に似ていて、サルは始めからサルなのではなくサルになっていくのだ。手にしても、モグラは土を掘ることが出来る、鳥は飛べる、など何かに特化していると出来ることが限られる。人間の手は、特別何かに秀でているわけではないが、道具を使うことによって何でも出来る。ある意味、スペシャリストにならず「退化こそ進化だ」というようなお話が印象的でした。「専門的にならない＝自由になる」、「自由に向かって発展しなくてはいけない」、「人間になっていくというのが課題である」とお話下さいました。

とても深く、考えさせられる講座でした。

(2年生保護者 西澤史瑞子)



ローター・シュタインマン氏プロフィール

シュタイナー学校卒業後、保育者・公立学校教師を経て、ハンブルク・シュタイナー学校で16年間担任および音楽専科として勤務。ベルリン・シュタイナー教育教員養成ゼミナール前代表を務める。現在も同教員養成ゼミナールで教鞭を取りつつ世界各地で講演活動を行う。ドルナッハ・ゲーテアナム精神科学自由大学教育部門研究委員。世界ルドルフ・シュタイナー教育芸術支援部門委員。

●やってみました「学園周辺ぐるっと探訪会」

横浜シユタイナー学園の教育は、教員や保護者だけでなく、学園周辺の豊かな自然環境、地域社会環境にも支えられています。そのことを実感していただくために、「学園周辺ぐるっと探訪会」という企画を二度に渡り実施し、よい手応えを得ましたので、ご報告します。

探訪会の第一回は、春休み中の日曜日。いつもは事務所で仕事をしている事務局メンバーと霧が丘に引っ越されたばかりの新一年生担任・太田初先生を含む総勢5名で実施。第二回は、新一年生保護者5名が参加。子どもたちのお弁当が始まった連休明けの平日午前にも実施しました。

いずれの探訪会もほぼ同じコース。霧が丘校舎を起点に、学園とゆかりのある施設などに立ち寄りながら、授業でお借りしている若葉台の畑を通り、乗馬クラブのカフェで休みました。第一回探訪会ではランチを食べながら、第二回では美味しいコーヒーとケーキを囲んでおしゃべり。互いの距離がぐっと近づいた一時を過ごしました。

一息ついた後は広大な新治の森に入り、暗い針葉樹林、明るい尾根道、清々しい竹林、のどかな谷戸、授業でお借りしている谷戸田を訪ね、古い民家を残した里山交流センターを最終ポイントに帰路へとつきました。

参加者は皆、恵まれた環境や地域との学園のつながりを実感した様子。「何年も働いているけれど、こんな環境が広がっていたとは！」と、事務局スタッフの言。太田先生も、「新学期が始まる前に地域の全体像をもてたことが役立っています」、とのこと。

こんな楽しい探訪会が、学園をより身近なものにし、お互いのつながりを深めることになる。専科の先生からも「行ってみたい」との声が届きますし、異学年の保護者で楽しむのもよいでしょうね。ユネスコスクールの目標である、有機的で持続可能な活動を生み出すこんな探訪会、これからも続けていきたいと思えます。



乗馬クラブのカフェでひと休み

参加した1年生保護者の皆さんの感想を最後にご紹介。

「こんな里山が都会の一角にあるなんて、歩きながら軽井沢へでも行った様な時間を過ごせていやされました。土の上の落葉を足の裏で感じながら歩いていると、カエルの鳴き声が聞こえてきていいですね。学園と近隣との関係もわかり、これから学園と関わっていく気持ちも深まりました。」(石橋美佳)

「早めにやって来た初夏の陽気のもと、探訪会に参加しました。話には少し伺っていましたが、公園や森、とくに新治の森は、毎日通っている学校から歩いてすぐの立地に広がる世界とは思えない奥深さでした。ビル内の校舎でありながらも、ただよう落ち着いた雰囲気は、この広大な空気を背負っているからだと納得しました。もうひとつの楽しみは美しい馬の姿を眺めつつのお茶でした。満喫いたしました。」(浅川映子)

「初夏を思わせる陽気の中、帽子、リュック、UVカットパーカーの完全防備で散策に臨みました。立ち寄る場所場所で、佐藤さんが地域の方にごあいさつ。このようにして近隣の方々との関係を築いてこられたのだなあと、“シユタイナー学園1年の保護者です……”とこちらもおずおずとごあいさつ。子どもたちの歩ける範囲に、畑があって、田んぼがあって、馬がいて……と、家族に教えてあげたい所がたっくさんありました！滑る笹の葉に集中しながら竹林を歩いている時、ふと“目の前のことだけに集中している時って、最近なかったな”(いつも夕飯やら段取りを考えて気がそぞろなので)と、リフレッシュした一時を過ごせたのでした。」(出口依子)

「この学園の魅力のひとつに、周辺のすばらしい自然環境があげられると思います。小川や田んぼやさまざまな生きものたちと過ごすことは、こどもたちにとってもユートピアにいるような貴重な体験となることでしょう。シユタイナー教育の理念が、学園の周辺の多様な環境を子どもたちが呼吸することで豊かに花開いてゆくような気がします。同行された皆さんも“夢みたいな光景ねえ”と、都会にいたのに体験できるこのツアーをたっぷり楽しまれたようでした。」(永田陽一)

報告：佐藤雅史(1年生保護者)

茶話会での幼稚園訪問

5月23日(木) 児童募集の一環である企画・茶話会として、学園公開Gメンバー三人で三鷹台・なのはな園に行ってきました。閑静な住宅街の中にある園舎はかつての三鷹のシュタイナーシューレの最初の校舎として使っていた場所だそうです。

迎えて下さったのは14~5名のお母さん方、未就園のお子さん数人を傍らで遊ばせながら参加して下さった方もいました。

やらかな園の雰囲気の中、車座になりそれぞれ自己紹介から始めました。

その後、学園の概要・めざすもの・教育の内容・特徴など学園パンフレットを用いて説明をしていきました。

たくさん伝えたいことがあり、説明が多くなりましたが、やはりメンバー二人が持参したエポックノートの現物はどのお母さんたちも感嘆の声を上げて見入っていました。話を進める中で、学園メンバーの一人が「そうなんですね！うちの子が難しい計算問題に出くわすと、裏紙がびっしりうまるくらい計算式をたくさん書いて考えるのですが、それもこの教育がしっかり意志を育てているからなのですね！」と声を上げました。本当に改めて感激しているその姿を見て、私も嬉しくなりましたが、話を聞いている園のみなさんにも、臨場感溢れる生の声として伝わったのでした。

参加された方々のうち、何名かの方は来校下さったことがありましたが、まだいらしたことの無い方も多く、是非学園に足を運びたいとってくださり、オープンデイ、公開講座のご案内もできました。

さあ、そろそろ失礼でしょうか、と腰をあげてから、また質問がいくつか出てきて、結局お昼をかなり回っての終了となりましたが、終始温かい雰囲気にも包まれた会となりました。

以前学園で開催した茶話会で「あんなに生き生きと素敵な笑顔で学校の仕事をしている親御さんがいるということが素晴らしいですね」という感想をいただいたことがあります。保護者の皆さんが生き生きと喜びを持って活動している姿が大きな学園の魅力になっているということ。私が保護者のみなさんと活動させていただいていると本当にそう思います。そして子どもたちはそんなお母さんやお父さんを見て育っています。社会の中で他の人のために力を惜しまず、協力して何かを成し遂げる姿はやがて社会に立つこどもたちの大きな力になると感じます。

そう言えば、全校ピクニックで、大きい子が小さい子をおんぶし、その荷物を他の子どもたちが持って歩くということが自然にできるという話がありました。もう既にこの学園のこどもたちにはそんな力が自分自身の中から育ってきているのですね。素晴らしいことです。

一昨年7月より学園で開催の茶話会から始まり校内見学会、そして出張茶話会も保護者のみなさん、事務局メンバー、教員で協力しながら回を重ねてきました。

その中から、この学園の仲間になって下さる方が出てきていることをとても嬉しく思います。

(手仕事専科 学園公開グループ担当 柳本瑞枝)

ジョン・ピリングさんコンサート 5月22日(水)



ジョンさんとの出会いは、昨年夏のライアー世界大会が行われたドイツ・ボーデン湖での事でした。

私は単独でドイツへ行くのは初めてで、しかも英語も独語もできないことがとても不安でしたが、念願のライアー大会参加を目指し、一念発起して宿をとりました。途中で日本の方と待ち合わせできることになり、そこに吉

良さん(ライアー教師の方です)が合流されることが決まり、吉良さんと親しいジョンさんが車で迎えに来てくれることになりました。待ち合わせたボーデン湖のフェリー乗り場でお会いすると、初対面にも関わらず、とても気さくな方で緊張がすぐにほぐれ、なんと吉良さんとジョンさんと私は同じホテルを取っていたことが分かりました。それで結局毎日会場まで車に乗せて頂き、お陰で私は何の不自由もなく大会を楽しめたのです。

大会では3・11の被災地復興支援のために各国のライアー奏者から寄稿された楽曲を、ジョンさんと吉良さんが編纂された楽譜を携えて支援の呼びかけをして下さり、完売しました。

一週間の大会の終わりに、片言で「春に千葉の学園を退職し、秋からは横浜の学園で働く事になった」と告げると、「では今度日本に行く時はその学園を訪ねるよ。」と言ってくれ、別れました。そして5/22にそれが実現しました。

ジョンさんのライアーの響きで学園全体があたたかさに包まれ、聴いていた人も、学園の空間も満たされた感じがしました。技術的にも熟練された方ですが、やはり音楽には演奏者の人間性そのものが現れることと、その力を改めて認識した一日でした。

公開公演にいらしたお客様には「学園のよい雰囲気の中でジョンさんの渾身の演奏を聴けた」と大変ご好評を頂き、その想いが更に学園にあたたかな余韻を残してくれました。

ジョンさんは子どもたちからの歌のプレゼントをととても喜んで下さり、それも子どもたちにとって嬉しい体験だったと思います。

(音楽専科 原口理恵)

インフォメーション

7月7日(日) 公開講座「1年生になるということ」

10:00~12:00 会場：横浜シュタイナー学園 霧が丘校舎
※12:00~12:30 は、学園ミニ説明会を予定しております。
神田ひとみ(5年生担任)・小林裕子(2年生担任)

参加費：一般 2,500円(学園NPO会員 2,000円) 定員 40名
※保育のお申し込み、お問い合わせは、7/2(火)正午まで
※各自上履きをご持参ください。

校内見学会

学園では毎月1回、校舎をご覧いただく機会を設けております。
日程：7/19、9/27、10/25、11/22、1/24、2/28(いずれも金曜日)
時間：15:30~16:30
場所：霧が丘校舎 参加費：無料
なるべく事前にお申し込みください(当日参加も歓迎です)。
お子様連れも可です。お待ちしております。※お子様の上履きはご持参ください。

教員を交えての茶話会のお知らせ

シュタイナー学校のことを少しでも知っていただく機会になればと、今年度、定期的に茶話会を催します。
日時：7/18、9/26、10/24、11/21、1/23、2/27、3/13
いずれも木曜日 10:00~12:00
場所：横浜シュタイナー学園 霧が丘校舎

NPO会員募集

横浜シュタイナー学園の活動趣旨に賛同し、活動への参加・支援を希望される方はどなたでもNPO会員になれます。総会や中間報告会へご参加いただけたり、学園主催の各種催しに会員価格でご参加になれます。また紀要冊子「野ばら」(年2回)とニュースレター(年10回)をお届けしています。会費：12,000円/年(分割払いも可)今年度も是非ともご支援をお願いいたします。

大人のオイリュトミー 基礎「立つ、動く、歩く」

日時：7/5(金)、12(金) 10:00~12:00
講師：隅田みどり(本学園オイリュトミー教師)
会場：横浜シュタイナー学園 十日市場校舎
参加費：1回 2,200円(一般) / 2,000円(NPO会員)
(当日、直接お支払い下さい)
女性はフレアスカート(またはオイリュトミードレス)。
オイリュトミーシューズか厚手の白い靴下をお持ち下さい。
※保育はありません。お子さまはお連れにならないようお願いいたします。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuken-info@yokohama-steiner.com

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替：00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(セトキウ店) 当座0130702



星の金貨

スクールショップ「星の金貨」では、子育て講座や催し物、バザーにて出張販売いたします。

☆夏の講座☆

すこやかに、わたしらしく生きるために
~アントロポゾフィー医学の視点からみた薬のはなし~
講師：江崎 桂子

(薬剤師、社会福祉士、治療教育研究家、
バイオグラフィーワーカー)

日時：2013年7月20日(土)
AM10時~12時 受付9時30分~
場所：共育ち・ひなた(横浜市神奈川区鳥越11-17)
TEL: 045-423-6898

<http://tomosodachi-hinata.blogspot.jp/>
参加費：2,000円 当日会場でお支払いください。
定員：15名程度

☆より自分らしく、健康に生きるために出来ること。
アントロポゾフィー薬剤の紹介から日々の健康への配慮まで、自分らしさを支えるために役立つことをおはなしいたします。

◆ お申し込み・お問い合わせは、
hoshi-kinka@freeml.com 宛てメールか、
FAXで045-621-6386までお願いします。
E-mailでお申し込みされる場合でも、
連絡先(Tel/Fax番号)は必ずご記入ください。
(お申し込み受付7月17日まで)

◆ 保育はありません。
「アントロポゾフィー医学の本質」など関連書籍も取り扱っております。
お問い合わせは、e-mail: hoshi-kinka@freeml.com
ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>

ニュースレター購読メンバー募集

NPO会員/ニュースレター購読メンバー更新のお願い

紀要冊子「野ばら」(年2回)・ニュースレター(年10回)をお送りいたします。会費：2,000円/年
継続ご希望の方は6月末までに更新手続きをお済ませください。よろしくお願いいたします。

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第62号

2013年6月27日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人 横浜シュタイナー学園

<http://yokohama-steiner.com>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載はお断りします。